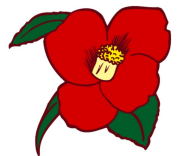


1019
発行
2020年
10月19日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
清野 聡
編集責任者
教 宣 部



書面審議による開催第89回定期全国大会

大会は成立

国労本部・第89回定期全国大会が9月18日、新橋交通ビルにおいて開催されました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面審議による開催でしたが大会は成立、2020年度の中央執行委員会が成立しました。

全国の代議員から発言が書面で寄せられ、真摯な発言が集約されました。



職場、地域など厳しい状況の中全組合員が一致団結し国労運動の更なる発展をめざし大会成立と表決結果を承認し、向こう1年間の方針が決定されました。

大会では、多くの代議員からオンラインを活用した遠隔会議システムの成立や議決の有効性など規約・規則の改正をはじめ、コロナ禍のもとでの組合活動のあり方や方向性など課題が投げかけられました。

職場活動、地域活動など、すべての取り組みを通じて組織強化・拡大を最重要課題として取り組みを進めていかなければなりません。

詳しくは「国鉄新聞」第3243号を参照してください。

中央執行委員会 の成立について

中央執行委員長
松川 聡

総括・政治・共闘担当
中央執行副委員長
佐々木隆一

調査・法対部長・共闘担当
書記長
佐藤 裕樹

企画部長・政治・共闘担当
中央執行委員
宮崎 浩則

総務・財政部長
組織・共闘担当
本間 誠

組織部長・業務担当
灌口 良一

教宣部長・共闘担当
木村 忠義

業務部長・貨物・共闘担当
会計監査員
馬橋 博一

羽生 隆盛

広瀬 裕一

ちよつと、いっごく

秋山郷・栄村も夏から季節は秋に変わってきました。10月6日、7日と栄村へ行ってきました。

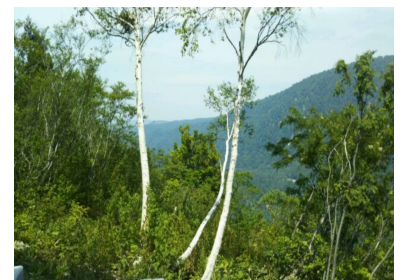
季節は10月に入り、風が肌寒く感じるようになりました。厳しい暑さが続いた夏から季節は変わり秋も深まりました。

猛暑だった夏が嘘のように感じます。新潟市内も街路樹が色づき始めてきました。

栄村は、最低気温が10より下がる日があり、寒く暖房が必要になってきました。

苗場山は、山頂は素晴らしい紅葉になっています。登山者からの話では素晴らしい紅葉だったと話していました。6日、民宿で一緒にあったお客さんからの情報でした。

この頃になると、民宿では登山客が多くなってきます。栄村には苗場山、鳥甲山、左武流山があります。どれも2000M級の山で百名山です。



民宿の女将さんは元気にしていました。GOTOトラベルの影響で、ほぼ毎日お客さんが来ているようです。良かったです。特に登山客が多いです。

6日、紅葉ですが、まだ色づいていませんでした。まだ早かったです。

昨年は、10月下旬に行きました。素晴らしい紅葉でした。特に天池の「もみじ」は素晴らしかったです。

今年はコロナ禍でイベントがすべて中止でしたが、10月31日に「夢灯」が開催されます。毎年、9月に開催していますがコロナ禍で中止となりました。

しかし、小規模ですが開催することになりました。会場は「天池」で、沢山のキャンドルが設置され星の輝きとキャンドルの輝きで素晴らしいイベントになります。



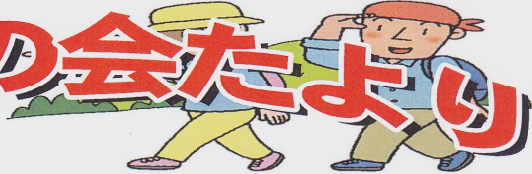
2020年 10月2日 第122号



KN山の会たより 新潟市秋葉区善道町1-1-1



KN山の会たより



国 労 新 潟 山 の 会
 発 行 所
 新潟市秋葉区善道町1-1-1
 〒956-0865 ☎ 0250-24-8336
 FAX 0250-24-8337
 2020年10月2日No. 122号
 発行責任者 大湊 茂
 編集者 野村 正三



9月15・16日一泊二日

西穂高岳 (2909m)

翌日 (9月16日水) 日程

西穂高山荘、2367m	6:20
(1:30) ↓	
西穂独標、2701m	7:40
(1:30) ↓	
西穂高岳、2909m	9:15
(1:00) ↓	9:50
西穂独標、2701m	10:58
(1:00) ↓	
西穂高山荘、	11:43
(1:00) ↓	12:20
西穂高口駅、	13:20
(0:25) ↓	
新穂高温泉駅	13:40
(1:30) ↓	
松本IC	15:25
(3:00) ↓	
国労事務所	18:15

当日 (9月15日火) 日程

国労事務所 (出発)	7:00
(3:00) ↓	
富山IC	10:00
(1:30) ↓	
新穂高温泉駅	11:47着
(0:30) ↓ ロープウェイ	12:30発
西穂高口駅	13:17
(1:30) ↓	出発14:00
西穂高山荘 2367	15:12着

西穂高山荘=予約1泊10500円
 新穂高→山頂=往復3000円
 +荷物6kg以上運賃
 高速料金、
 新津IC→富山IC=5.950円片道
 松本IC→新津IC=

第一日目 今回は、急きょ西穂高へ行くことになりました。準備は各々していた模様で、最初は7月下旬、8月も計画を立て、長雨で延び延びになっていたところの出来事でした。

私はもう今年泊りの山は無理かなと思っていたところの出来事。いってよかったです。率直な感想です。

天気はまずまずの天気でしたが、夏の天気と違い雲がかかっているにもかかわらず3000~3500m上空にある雲で、山並みがくっきり見えていた。

標高2909mの西穂高岳は、穂高連峰のなかでは低いものの、岩の殿堂・穂高連峰の一翼を担っている峰である。

コースは、新穂高ロープウェイをつかって2156mの西穂高口まで一気に上がる。途中ロープウェイから、西穂高岳の稜線や南岳から槍ヶ岳まで望める。西方へ見ると、笠ヶ岳を見ることもできました。ロープウェイ山頂から、西穂高山荘へは、約1時間チョットつきますが、山荘までの樹林帯の急な岩がむき出し、石ゴツゴツ、ジグザグに登ると山荘が見えてくる。山荘の広いテラスから、テント場、上高地側の霞沢岳が妙に気になる山である。なぜかは、上高地では、人気の山が沢山在るのでは？と、山荘からの眺めがいい。

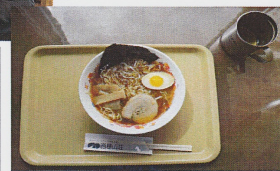
第二日目 6時20分山荘出発から大岩の間を縫うように登りが、結構キツイ、森林限界を超えると、突然視界が広がる。穂高連峰の姿が見え



てくる。石が積まれた小高い場所が丸山。ここから広い尾根を登り、傾斜もだんだんと急で、独標への岩場は目印に従っていく。長いクサリを

たどり、西穂独標2701mにたどり着く。目の前にはさらに、険しい峰が、特に際立っているピラミッドピークだ。この先西穂高岳山頂までは、13のピークが連続する岩歩きとなる。ここの岩歩きは、足の架かり少なく、岩が滑りやすいのではないかと考えた。なお慎重に、景色は抜群に良いが、だんだん観る余裕がなくなる。ナイフエッジの稜線が続き、大小の峰を超え、石の積み重なった西穂高山頂にたどり着く。山頂からは奥穂高岳、前穂高、明神岳へと続く稜線。大パノラマが広がっていました。

下山は、登り以上に慎重に。無事西穂山荘着、西穂ラーメンが評判で一度は食べてける、...「マズ」だった。誰が評判のラーメンと言ったのか知らないが、私は「普通」以下でした。日帰り温泉「ひがくの湯」で汗を流し、帰りは、松本IC経由で帰ってきました。



編集後記

今号は「KN山の会」の機関紙を紹介いたします。よろしくお願ひします。

全国大会、エリア本部大会が書面審議による大会でしたが大会が成立し新年度・執行委員会が成立しました。

新潟地本は、書面での審議ではなく予定通り地本大会は開催します。ただ、出席者は代議員・地本執行委員、大会構成メンバーだけになり大会日程も10時から12時までの約2時間の予定です。
 新型コロナウイルス感染拡大のため異例の大会開催になりますが各組合員の御協力をお願いいたします。



10月、中旬を過ぎ山々は紅葉のシーズンに入りました。コロナ禍でアウトドアが流行っているようです。ひとりキャンプを楽しむ方々が増えているようです。
 山頂は素晴らしい紅葉になっています。雪が降ったようです。これから季節は秋から冬へ向かいます。今年の降雪は、心配です。大雪になるようなウワサですが、。

